

重点目標	評価項目	具体的取組事項（計画）	具体的取組事項（実績）	実施主体・担当
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員の資格取得の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生への教育研修業務に必要な専門知識や技術を習得するため、職員の資格取得を推進する。 ○ 非農家出身学生等を意識した実習の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業経験の少ない非農家出身学生等の理解促進を図るため、馴染みの薄い専門用語の解説からはじめるなど、農業の実践を意識した教育を行う。 ・ 卒業後の新規・雇用就農を踏まえ、高収益作物栽培・機械実習の充実を図る。 ・ ショベルローダーの操作や牛体管理など、重機や家畜に触れることの危険性について、安全面に最大限配慮するとともに、講義と実習を通じて安全管理の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員の資格取得の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 次のとおり各種資格を職員に取得させた。 (家畜人工授精師（牛）：1名) (JGAP 指導員：6/5～6 1名) (ASIAGAP 指導員基礎差分研修：1/30 2名) (農業向けドローン資格：2/5～9 2名) (大型特殊免許：4/25～5/30 4名) (車両系建設機械（整地等）：5/22～6/1 5名) (小型移動式クレーン：9/4～7 2名) (フォークリフト：11/6～10 10名) (ガス溶接：12/4～5 3名) (アーク溶接：12/6～8 5名) (玉掛け：1/22～26 4名) ○ 非農家出身学生等を意識した実習の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業の専門知識が少ない非農家出身者に配慮し、簡単な専門用語の説明からはじめるなどの改善や農業機械の運転実習時間を増やし、実地による操作・安全を強化した(随時)。 ・ 卒業後の新規・雇用就農を踏まえ、高収益作物(いちご)栽培・機械実習に係る実習の充実を行った(随時)。 ・ 非農家学生を中心に、フロントローダ及びトレーラーけん引実習の補講を実施した。 	<p>教務部各班</p> <p>教務部各班</p>
	(2)基礎学力不足の学生対応・生活指導	<p><学生対応の充実・強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 理解度が低い学生に対する補講を行う。 ○ 基礎学力不足の学生に対する対応の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力不足の学生に対する科目(基礎数学)を設定し、学力向上を目指す。 	<p><学生対応の充実・強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 理解度が低い学生に対し、補講及びレポート作成の個別指導を実施した。 ・ 資格取得に向け、合格率の向上を目指し、補講や模試を行った。 ○ 基礎学力不足の学生に対する対応の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生を対象とした科目(基礎数学)を創設し授業を実施した。(15回 52名) ・ 学生の理解向上のため、復習授業を適宜行った。 	<p>教務部各班</p> <p>教務課</p>

重点目標	評価項目	具体的取組事項（計画）	具体的取組事項（実績）	実施主体・担当
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生会、各委員会など学生自治活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生会、各委員会などの学生自治活動を推進する。なお、行事運営を初めて対応する職員や学生も多いため、新たな行事の企画・運営方法を改めて検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農場実習については管理部活動を中心としたチームティーチングを実施し、指導内容の共有を図った。 ○ 学生会、各委員会など学生自治活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナが5類に移行したことで、学校祭などの学校行事を全面実施することで、学生の自主自立を育成するとともに、各種委員会活動を活発に開催できるようにした。行事運営を初めて対応するため、新たな行事の企画・運営方法も模索していく必要性があった。 	教務課
	(3)職員の自己評価取組の改善	<p><職員個々のPDCAサイクル></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職員ごとの改善目標の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 短期、中期、長期の課題意識を教務係内で共有し、次年度に向けた計画立案に繋げる。 ・ 前年度実績を踏まえた改善目標及び具体的取組事項を設定して取組を行う。 ・ 職員自らが行う自己評価と、管理職員による個人面談により、改善目標の取組成果の検証を行う。 ・ 教育研修業務に関わる職員全員が、前年度実績を踏まえた改善目標及び具体的取組事項を設定し、取組を行う。 ○ 職員の研修ニーズに応じた研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教務部の管理職会議（教務部長、教務課長、主任講師）を開催し、職員ニーズを踏まえた効果的な職員研修を行う。 	<p><職員個々のPDCAサイクル></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職員ごとの改善目標の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画に基づく実践内容を検証し、課題を踏まえた改善策を検討し、次年度の計画立案に繋げた。 ・ 職員自ら行う自己評価と管理職の個人面談により、改善目標の取組成果の検証を行った（3回（5月、10月、2月））。 ・ 教育研修業務に関わる職員全員が、前年度実績を踏まえた改善目標及び具体的取組事項を設定し、取組を行った（随時）。 ○ 職員の研修ニーズに応じた研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主任講師会議で研修課題を検討し、各班共通の課題をテーマにした職場研修を実施するとともに各種研修に職員を参加させた。 	全職員 主任講師会議
魅力ある教育・研修づくりと情報発信の強化	(1)教育・研修内容の充実	<p><時代や地域の要請に応える教育の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学生自らが考える6次産業化の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・ 6次産業化実践論及び6次産業化実践実習で加工品の開発に取り組むなど内容の充実を図る。 ・ 農畜産加工・起業概論において、起業化に向けた知識や技術の習得など内容の充実を図る。 ・ 学生自らが商品を開発し販売することにより、経営理念や商品のコンセプトづくりなど実践的な教育を行う。 	<p><時代や地域の要請に応える教育の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学生自らが考える6次産業化の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義のほか、外来講師（ますやパン）による農畜産加工実習を実施した。 ・ 学生による農大で調達可能な農作物等を使用した試作品開発を検討した。 ・ 食品 HACCP の更新に向け、リスク管理マネジメントの実際（食品事故）について学習した。 	教務部各班

重点目標	評価項目	具体的取組事項（計画）	具体的取組事項（実績）	実施主体・担当
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品 HACCP の実践が義務づけられたことに伴い、食の安全・安心に関する教育内容の充実を図る。 ○ 地域と連携した交流授業の充実・拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農大で生産された農産物を、本別町内の道の駅やスーパーなどで販売する。 ・ 野菜即売会や農大市を実施する。 ・ 先進的な GAP 認証農場の視察を実施する。 ・ スマート農業を実践している農業者を招聘し、事例紹介を行う。 ・ 帯広調理師専門学校の学生に対し、収穫体験を実施する。 ○ 先進的な農業機械を導入した演習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農機具メーカーの技術者などを外来講師に招聘し、先端技術を活用した農業機械やソフトウェアの操作等に関する技術講習を行う。 ・ ドローンの活用方法やトラクターの GNSS ガイダンスシステム及び自動操舵システムなど、ICT を活用したスマート農業機械の操作方法を習得するための演習を行う。 ・ 農業機械の基本操作や農作業安全に対する意識の向上を図るため、外来講師等による農業機械の操作・整備・安全作業に関する研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品加工に当たって、食品 HACCP の考え方に基づく衛生管理が実践されているか点検・検証を行うとともに、北海道 HACCP の認証を取得したアイスクリームについて、工程の検証を行った。 ○ 地域と連携した交流授業の充実・拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農産物の販売を道の駅、スーパー、市場を通して販売を実施した（随時）。 ・ 野菜即売(8/10)、農大市(10/21)を計画通り開催した。企業と連携し、学生自ら商品開発に取り組み、販売することができた。・ GAP 認証農場における先進地視察を実施した。(7/19~20、10/23~24) ・ 本別町立中央小学校(1,4年生)対象の校外授業(北の農学校)を実施。 ・ (株)味のちぬやと連携協定を締結し、学生自らが参画する農産加工品の開発と流通や人材育成等に関し、協働の取組を行うこととした。 ・ 農林水産省北海道農政事務所を招聘し「食料・農業・農村基本法」「みどりの施策」などの講義を受けた。(養成畑畜2年) ○ 先進的な農業機械を導入した演習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農機具メーカーの技術者などの専門家を外来講師に招聘し、先端技術を活用した農業機械やソフトウェアの操作等に関する技術講習を行った(12回(4/24、5/15、6/21、7/12、18、19、20、24、9/27、11/27、12/8、12/15))。 ・ ドローンの活用方法やトラクターの GPS ガイダンスシステム及び自動操舵システムなど、ICT を活用したスマート農業機械の操作方法を習得するための演習を行った(スマート農業機械学演習:30時間)。 ・ 農業機械の基本操作や農作業安全の認識を徹底するため、外来講師等による農業機械の操作・整備・安全作業に関する研修を行った。 ・ ロボトラ実践研修を開催した。(R5.6.27 20名) 	<p>教務部各班</p> <p>教務部各班</p>

重点目標	評価項目	具体的取組事項（計画）	具体的取組事項（実績）	実施主体・担当
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 家畜繁殖管理システム(ヒータイム)や家畜体調管理システムの特徴について理解の促進を図る。 ○ 農業のグローバル化や多様な実需者ニーズへの対応を踏まえた実践教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農場 HACCP に基づく生産管理手法を取り入れた農場運営を通じて、輸出にも対応できる生産管理や衛生管理に関する教育を行う。 ・ GAP による生産管理の実践的な教育を充実するため、認証を受けた ASIAGAP をベースに授業や実習での生産行程管理を指導する。 ・ 有機 JAS 認証を取得した有機農業の実践や、クリーン農業に関する授業を通じて、環境と調和した農業生産に係る実践的な教育の充実を図る。 ○ ICT 等を活用したスマート農業に関する研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ スマート農業の指導者を育成するため、ICT に係る研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農機具メーカーを中心に外来講師を招聘し、繁殖管理など様々な牛体管理システムの活用について、演習を実施した。 ○ 農業のグローバル化や多様な実需者ニーズへの対応を踏まえた実践教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農場 HACCP に基づく生産管理手法を取り入れた農場運営を通じて、輸出にも対応できる生産管理や衛生管理に関する教育を実施した。継続審査を受け、農場 HACCP の管理工程のチェック法について、チーム内共有を実践した。 ・ GAP による生産管理の実践的な教育を充実するため、ASIAGAP の認証を継続し、GAP を活用した授業を行った。(GAP 概論 15 時間)。(ASIAGAP 認証：令和 4 年 8 月 21 日、対象作物：いちご) ・ JAS 有機による環境保全型農業に実践的教育を充実するため JAS 有機認証を取得・継続し、クリーン農業の授業を行った。(クリーン農業・環境保全論 15 時間) (JAS 有機認証：2022 年 4 月 28 日) ○ ICT 等を活用したスマート農業に関する研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ スマート農業の指導者育成のため、指導機関の職員を対象に次のとおり研修会を実施した。 (ロボットトラクタ実践研修：6/27 20 名) (ICT 農作業機実践研修：8/2~3 15 名) (リモートセンシング実践研修：10/19 16 名) 	<p>教務部各班</p> <p>研究・研修班</p>
	(2)農大情報の発信	<p><情報発信力の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報基盤のあり方の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政コミュニケーション基盤の整備や校内 LAN サーバの更新に合わせ、パソコンの整備計画を検討する。 ○ 高校、普及センター、関係機関とのネットワークの拡充・強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生募集に向けた情報を発信するため、学校案内やリーフレットを道内農業者や高校等への配付を行う。 	<p><情報発信力の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報基盤のあり方の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内 LAN サーバの更新に合わせ、パソコン台数の見直し及び Wi-Fi 化により、学生の教育環境の利便性向上を図った。 ○ 高校、普及センター、関係機関とのネットワークの拡充・強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 道内外の延べ 170 校を訪問し学生募集に努めた。定員確保には至らなかったが、農業高校は勿論、普通科からも進路説明会に指名で呼ばれる等、高校と 	<p>情報委員会</p> <p>教務部各班</p>

重点目標	評価項目	具体的取組事項（計画）	具体的取組事項（実績）	実施主体・担当
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業をめざす高校生の進路サポートを行うため、全ての農業改良普及センターと連携して、道内各地で高校生を対象とした進学相談会を行う。 ・ 農大生の卒業後の就農促進に向けた取組を検討するため、市町村等の地域担い手育成センターを訪問し、新規就農や雇用就農など担い手の育成確保に関する情報交換を行う。 ○ ウェブサイトやFacebookを活用した積極的な情報発信と掲載内容の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ ウェブサイトやFacebook、Instagramを定期的に更新するなど、情報発信を積極的に行う。 【主な掲載情報】 各種行事、研修状況、学生募集状況、学生の取組、農大祭・即売会における販売品目のPR ・ 魅力あるウェブサイトとするため、情報量及び質の向上を図るとともに、更新回数を増やすなどの改善を行う。 ○ 在校生や卒業生などの活躍情報の発信 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種刊行物や本別町の広報誌に、農大や学生に関する記事を掲載するなどして、情報の発信を行う。 【掲載誌】 同窓会の会報（12月発行） 父母の会の会報（1月発行） 本別町広報誌（4月・6月・9月・2月掲載） ・ 同窓会の総会や役員会において、卒業生や在校生に関する情報の積極的な提供を行う。 ○ 研修受入農家や各地域の指導農業士への情報提供 <ul style="list-style-type: none"> ・ 養成課程の先進農家体験学習などの巡回指導に際して、受入農家へ農大の情報提供を行う。 ○ 新しい技術を導入した授業・研修内容のPR <ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道農業普及学会において、農大における授業や研修の内容等の情報発信を行う。 	<p>の連携は深化した。成果として、道内外の農業高校出身者の減少分を普通科出身者でカバーしてきたが、昨年度より（今年度53名、昨年度59名）学生を確保できなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規参入や雇用就農など就職に向けた情報収集の強化を行った。（胆振就農フェア（1/13 6名）、JAグループ採用説明会3/1 12名） ○ ウェブサイトやFacebookを活用した積極的な情報発信と掲載内容の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ Facebook (FB) 投稿数は今年度47件、フォロワー数1,114人となり、前年より38名増加した。（R6.2.9現在） ・ Instagram 投稿数は今年度47件、フォロワー数222人となり、前年より127人増加した。（R6.2.9現在） ・ デスクネットの庁内メールを活用した情報発信を行った。（道庁農政部、普及職員、教育庁2,200人）発信回数2回（5.9.11、6.2.7） ○ 在校生や卒業生などの活躍情報の発信 <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画どおり実施した。 同窓会の会報（12月8日発行） 父母の会の会報（3月発行） 本別町広報誌（9月号掲載） ・ 同窓会総会議案を全会員に送付することにより、同窓会活動の発信を行った。 ○ 研修受入農家や各地域の指導農業士への情報提供 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全道指導農家へ48名、普及センター25カ所に対し、農大への学生募集や研修等の情報提供を行った。 ○ 新しい技術を導入した授業・研修内容のPR <ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道農業普及学会のほか、北海道農場HACC P研究会にて、本校における農場HACC P実践事例について、事例発表を行った。 	<p>教務課 教務部各班</p> <p>教務課</p> <p>教務部各班</p> <p>教務部各班</p>

重点目標	評価項目	具体的取組事項（計画）	具体的取組事項（実績）	実施主体・担当
		<p>○ マスメディアの活用による情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入校式や卒業式、キャリアサポート、農大祭等の校内行事のほか、プロジェクト発表や GAP、農場 HACCP、一般研修等の農大の取組を積極的に報道機関へ情報提供を行う。 <p>＜入校志願者・研修対象者＞</p> <p>○ 学生確保等に向けた高校・大学等への積極的な情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 養成課程及び稲作専攻コースの学生確保に向けて、高校訪問により本校教育の説明を行う。 ・ 農業高校では農業情勢等の説明会や進学相談会を行う。 ・ 近年、普通高校からの受験生が増加傾向にあることから、入校実績のある高校を重点に普通高校に対し、受験者確保のためPR活動を強化する。 ・ 研究課程の学生確保に向けて、短大・専門学校への訪問により本校教育の説明を行う。 ・ 高校からの要望に応じて、農業機械研修の受入れを行う。 <p>○ オープンキャンパスや進学相談会等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業をめざす高校生の進路サポートを行うため、全ての農業改良普及センターと連携して、道内各地で高校生を対象とした進学相談会を行う。【再掲】 ・ 農業高校では農業情勢等の説明会や進学相談会を行う。【再掲】 ・ 農大に関心のある高校生等を対象に、農大内の施設や取組内容、在校生の意見に触れて理解を深めてもらうためのオープンキャンパスや学校見学会を行う。 <p>○ 研修希望者等へのウェブサイトによる情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修希望者や関係機関に対して、受講案内や願書 	<p>○ マスメディアの活用による情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入校式や卒業式など各種行事や取組内容について、十勝総合振興局を通じてプレスリリースし、積極的な取材を働きかけた。 (プレスリリース：8回) <p>＜入校志願者・研修対象者＞</p> <p>○ 学生確保等に向けた高校・大学等への積極的な情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道内外の農業高校をはじめ、道内では普通高校での進路説明会にも積極的に参加し、学生募集に努めた。(訪問高校数：延べ170校) ・ 入校実績のある普通高校に訪問し、学生が参加する進路説明会において、農業の現状や本校のカリキュラム等について説明を行った。 (訪問高校数：延べ170校) ・ 本校の稲作経営専攻コースを委託している北海道拓殖短期大学に対し、本校研究課程への進学に向け、積極的に働きかけを行った。 ・ 剣淵高校、真狩高校、美幌高校からの要望に応じて、ガス溶接技能講習を実施した。 (6/20、7/25 26名) <p>○ オープンキャンパスや進学相談会等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業改良普及センター2会場において進学説明会を実施した。(8/9 中富良野支所 8/18 後志本所) ・ 道内外の農業高校をはじめ、道内では普通高校での進路説明会にも積極的に参加し、学生募集に努めた。(訪問高校数：延べ170校) ・ オープンキャンパス(第1回 7/28 42名 第2回 23名)、学校見学会(第1回 6/17 5名 第2回 8/26 6名)を実施した結果、78名(昨年比+2名)が参加した。 <p>○ 研修希望者等へのウェブサイトによる情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村や農協などの関係機関のほか、研修希望者 	<p>教務部各班</p> <p>教務課 研究・研修班</p> <p>教務課</p> <p>研究・研修班</p>

重点目標	評価項目	具体的取組事項（計画）	具体的取組事項（実績）	実施主体・担当
		<p>＜学生の生活環境の充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学生寮の計画的な改修の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の生活環境の充実のため、次のとおり学生寮の修繕を行う。 男子寮トイレ改修工事 ○ 施設の有効活用を図るための長寿命化の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 建設部と連携し実施した長寿命化診断に基づき、次の改修工事の実施設計を行う。 【聖峰寮】長寿命化改修 【新館寮】外壁、屋上防水及び内装の改修、照明のLED化改修 ○ 男子寮の建て替え検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の劣化が著しく、改修による長寿命化や計画修繕の対象外とされた「聖鋏寮」の建て替えについて、検討を継続する。 <p>＜計画的な施設整備の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中長期的な施設整備計画に基づく施設等の整備推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の適切な保全管理を推進するため、令和4年度に策定した施設・機械の整備計画に基づき、各施設の修繕優先度に応じて、建築物等保全規程に基づく整備計画を策定し、必要な改修工事の実施について、建設部と協議を行う。 ・ 時代に即した情報ネットワーク基盤の構築に向けた検討を行う。 	<p>＜学生の生活環境の充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学生寮の計画的な改修の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の生活環境の充実のため、次のとおり学生寮の改修及び修繕を行った。 研究科寮1階女子洗面所扉設置工事 新館寮非常口ドア修繕工事 その他学生寮に係る緊急性の高い修繕工事 8件 ○ 施設の有効活用を図るための長寿命化の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 建設部と連携し実施した長寿命化診断に基づき、次の改修工事の実施設計を行う。 【聖峰寮】長寿命化改修 【新館寮】外壁、屋上防水及び内装の改修、照明のLED化改修 ○ 男子寮の建て替え検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農大における学生寮のあり方について、検討を行い、全寮制の見直し及び男子寮の個室化についての方針を決定した。また、施設の劣化が著しく、改修による長寿命化や計画修繕の対象外とされた「聖鋏寮」の建て替えに係る基本的な考え方を取りまとめた。 <p>＜計画的な施設整備の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中長期的な施設整備計画に基づく施設等の整備推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の適切な保全管理を推進するため、令和4年度に策定した施設・機械の整備計画に基づき、各施設の修繕優先度に応じて、建築物等保全規程に基づく整備計画を策定し、必要な改修工事の実施について、建設部と協議を行い、令和6年度～10年度までの大規模改修計画を取りまとめた。 ・ 時代に即した情報ネットワーク基盤の構築の一環として、校内LANのWi-Fi化を行った。 	<p>総務課 教務課</p> <p>総務課</p> <p>総務課 教務課</p> <p>総務課 教務課 教務部各班</p>